

伺之通

内務部議案十四年二月七日
別紙内務省伺醫師開業試驗料徴收ノ儀ヲ按スルニ試驗ノ際受驗料ヲ徴收スルハ相當ニ可有之候ヘ共内務省ノ布達ヲ以テ之ヲ定ムルハ隱當ナラサルニ似タリ從來醫制ノ事ニ於テハ内務省ヘ御委任ノ姿ニテ追々同省ノ達或ハ布達ヲ以テ試驗規則等ヲ定メシヨリ這回受驗料ノ事モ亦同省ノ布達ヲ以テ相定メ度旨趣ニ有之候處元來醫師取締上ニ關スルモノハ如キハ政府ノ布告ヲ以テ定ム可キモノニシテ而シテ從來内務省ノ布達ヲ以テ試驗規則等ヲ定ムルモノハ本邦醫制ノ創始ニ係リ地方人民ノ進歩ニ從ヒ徐々擴充スルノ意ニ因ルモノト雖モ今也人智漸ク進ミ各地方醫師取締ノ方法ヲ立テサルヲ得サル今日ノ場合ニ至テハ宜シク方法ヲ改良シ政府ノ布告ヲ以テ醫師取締上ニ關スル一般ノ規則ヲ定ムヘキナリ然ルニ内務省於テモ既ニ諸規則改正ノ見込ニテ專ラ起草中ノ趣ニ有之候ヘハ受驗料ノ事モ其規則中ニ編入シ一同ニ布告致シ可然候處右受驗料ノ儀ハ追々府縣ヨリ伺出候儀モ有之格別至急ヲ要スル趣ニ付先受驗料ノ事ノミ御裁可相成可然候然ルニ現今ノ試驗規則ハ内務省ノ布達ヲ以テ定メタルモノニシテ特リテ相定メ置キ追テ一般ノ規則相定メ候節一同更ニ布告相成候様致度仰高裁候也

廣島縣ヨリ内務省ヘ伺十六年十一月二日
本年第三十五號布告醫師免許規則第三條ハ同第三十四號公達醫術開業試驗規則第六條ノ科目ヲ教授セ
ル縣立醫學校ノ卒業證書ヲ得タル者ハ試驗ヲ要セス免狀下付ノ旨趣ナル哉

内務省指令 十六年十一月十三日

醫師免許規則第三條ニ於テ試驗ヲ要セス免狀授與ノ詮議ニ及フヘキ者ハ特ニ當省ノ許可ヲ得タル學校
ノ卒業生ニ限ルヘシ

山梨縣ヨリ内務省ヘ伺十六年十一月二日

醫師免許規則第一條但書ニ此規則施行以前ニ於テ受ケタル醫術開業ノ證ハ仍ホ其効アリトスト有之右
ハ從前御省ノ試驗ヲ經或ハ試驗ヲ須ヒス免狀御下付ノ者ハ勿論明治九年御省乙第五號御達ニ依リ縣限
免許致シ候從來開業ノ醫師ヲモ總テ包括シタル儀ト相心得可然哉
前項ノ如ク從前縣限リ免許候モノモ仍ホ其効アリトストキハ若此等ノ者其業ニ關シ犯罪若クハ不正
ノ行為アルトキハ規則第十一條ノ旨ニ準シ縣令ニ於テ適宜處分致シ可然哉

内務省指令 十六年十一月二十一日

第一項 伺之通

第二項 當省ニ於テ處分スヘキ儀ト心得ヘシ

島根縣ヨリ内務省ヘ伺十六年十一月六日
本年第三十五號布告醫師免許規則及本年第三十四號布達醫術開業試驗規則中左ノ項目疑義ニ涉リ決兼
候間至急何分御指令相成度此段相伺候也

醫師免許規則ノ部
一 第一條但書ニ此規則施行以前ニ於テ受ケタル醫術開業ノ證ハ仍ホ其効アリトスト有之候處右ハ本縣
限リ履歷ニ依リ許可セシ開業免許證モ含蓄スル儀ト心得可然哉又ハ御省ヨリ交付相成免許證而已ニ
止ル儀ニ候哉
一 第三條中官立及府縣立醫學校トハ客年文部省第四號達醫術開業學校通知甲乙兩種ノ醫學校ヲ指稱スル儀ニ
候哉

醫術開業試驗規則ノ部
一 第八條ノ場合ニ於テ三箇年以上醫學ヲ修メ居モノ前期試驗ヲ及第シ更ニ後期試驗ヲ受ケ度モノハ則
三箇年以上修學セシ故ヲ以テ更ニ一箇年半ヲ經過セサルモ出願可然哉又ハ前期試驗及第ノ上一箇年
半修學スルモノニ非レハ不相成儀ニ候哉
一 内外產眼科等其機科專門開業願出度モノアルモ爾後一切不相成儀ト心得ヘキヤ
一 第四條主事者ヲ派遣シ試驗一切ノ事ヲ監督整理セシムヘシト有之候處右試驗所ニ係ル費用ハ別ニ御
省ヨリ御支辨相成儀ニ候哉

内務省指令 十六年十一月三十日

第一項 前段伺之通

第二項 本年當省乙第四十六號達ノ通心得ヘシ

第三項 前段伺之通

第四項 伺之通

長崎縣ヨリ内務省ヘ伺十六年十一月七日

第一條 今般第三十五號布告醫師免許規則第三條第四條ニ該ルモノ、出願ニハ別途修學履歷書ハ要セ
サル儀ニ可有之哉

第二條 同上第五條ニヨリ假開業免狀ヲ得タル者他管或ハ管内ト雖トモ他郡區ヘ轉籍寄留之場合ハ免
狀返納セシム可キ儀ニ可有之哉

第三條 假開業免狀御授與之者ヨリハ規則第六條及第九條ノ手数料ハ上納ニ不及儀ニ候哉

第四條 規則第十一條ニ該ルモノアルトキハ客年九月卅衛第五九五號御訓示之通り相心得可然哉

右相伺候也

内務省指令 十六年十二月三日

第一條 第四條 同之通

但書ノ儀ハ其都度具申スヘシ

第三條 手数料上納セシムヘシ

秋田縣ヨリ内務省ヘ同十六年十一月二十七日

今般太政官第三十五號ヲ以テ醫師開業免許規則公布相成候ニ付左ノ件々相伺候

第一條 規則第一條但書此規則施行以前ニ受ケタル醫術開業ノ證ハ仍ホ其効アリトスト有之然ルニ從來開業醫ニシテ是マテ廢業シ鑑札付與セサルモノ更ニ復業願出共證確實ナルモノハ今后ト雖トモ本縣限リ開業差許不苦儀ト心得可然哉

第二條 規則第五條醫師ニ乏キ地云々ハ一府縣管内ヲ指示セラレ候儀ニ可有之哉或ハ一管内例之ハ甲地方ニ醫師アルモ乙地方ハ山間遠隔ニ僻在シ醫師ニ乏シク患者醫療ヲ得ルニ苦ム等ノ實況アルモノハ是又本條ニ據リ具狀スルヲ得ル儀ト心得可然哉

第三條 死亡又ハ廢業者開業免狀ノ儀昨十五年三月二十五日何同四月二十六日御指令ニ依リ該免狀ハ本廳ヘ返納セシメ候上裏面ヘ死亡或ハ廢業ノ旨ヲ明記シ應印ヲ捺シ下付致置候處規則第十條ノ趣モ有之候得共當縣地ノ如キハ曩ニ具狀ノ通り醫師缺乏專ラ其子弟ヲ勸勵スルノ一端モ相成候儀ニ付自今ト雖トモ前御指令ニ據リ取計度候條如何相心得可然哉

第四條 規則第十二條醫業停止ノ處分ニ係ルモノハ幾年月間停止シタル旨ヲ開業免狀ニ裏書云々ト有之右ハ左ノ書式ヲ以テ裏書取計可然哉

免狀裏書様式略之

内務省指令 十七年二月二十五日

第一條 十六年第三十四號布達ニ依リ更ニ試験ヲ受シムヘシ

第二條 後段之場合ニ限ルヘシ

第三條 難聞届

第四條 同之通

醫術開業試験規則

十六年十二月内務省指令
第三十四號
甲第二十六號ヲ以テ受檢
人心得ヲ定ム

布達 十六年十月二十三日太政大臣三條實美内務卿山田顯義副署

今般第三十五號ヲ以テ醫師免許規則布告相成候ニ付醫術開業試験規則別冊ノ通相定メ明治十七年一月一日ヨリ施行ス

但明治十二年二月内務省甲第三號布達ハ同日ヨリ廢止ス

右布達候事

醫術開業試験規則

第一條 醫術ヲ開業セントスル者ハ此規則ニ據リ試験ヲ受クヘシ

第二條 内務卿ハ毎年二回醫術開業試験ヲ舉行スヘシ但試験ヲ舉行スヘキ地方及ヒ試験期日ハ六箇月前之ヲ内務卿ヨリ告示スヘシ

第三條 内務卿ハ醫術開業試験ヲ舉行スル毎ニ官立及ヒ府縣立醫學校病院ニ從事スル者又ハ地方ニ於テ學術名望アル醫師理化學者等ヲ選ヒ試験委員ヲ命スヘシ

但齒科醫術開業試験ニ於テハ齒科醫一名ヲ試験委員ニ加フルコトアルヘシ

第四條 内務卿ハ主事者ヲ派遣シ試験一切ノ事ヲ監督整理セシムヘシ

第五條 醫術開業試験ハ之ヲ二期ニ分チ前期試験後期試験トス前後二期ノ試験ヲ同時ニ受クルコトヲ得ス

但齒科醫術開業試験ハ全科一時ニ受クルモノトス

第六條 試験科目ヲ定ムルコト左ノ如シ

前期試験科目

第一 物理學

第二 化學

第三 解剖學

第四 生理學

後期試験科目

- 第一 外科學
- 第二 内科學
- 第三 藥物學
- 第四 眼科學
- 第五 產科學
- 第六 臨床實驗
- 第七條 齒科試験科目ヲ定ムルコト左ノ如シ
 - 第一 齒科解剖及生理
 - 第二 齒科病理及治療
 - 第三 齒科用藥品
 - 第四 齒科用器械
 - 第五 實地試験
- 第八條 前期試験ハ一箇年半以上後期試験ハ更ニ一箇年半以上修學セシ者ニ非レハ之ヲ受クルコトヲ得ス

十七年一月市達第二號ヲ以テ第八條ハ但書ヲ追加ス

十六年十二月十二日內務省官報ヨリ廢止並ニ付心附カフ通牒ス

- 第九條 前期試験ヲ受ケントスル者ハ其願書ニ修學ノ履歷書ヲ副ヘ後期試験ヲ受ケントスル者ハ其願書ニ履歷書及前期試験及第ノ證書ヲ副ヘ毎年六月十二月中地方廳ニ差出スヘシ地方廳ハ翌月五日迄ニ其書類ヲ取纏メ內務省ニ進達スルモノトス
 - 但履歷書ニハ其師若クハ他ノ開業醫師二名以上ノ保證アルヲ要ス
- 第十條 地方廳ニ於テ試験出願者中醫事ニ關シ犯罪若クハ不正ノ行為アリト認ムル者アルトキハ之ヲ內務省ニ具狀スヘシ內務省ニ於テハ中央衛生會ノ審議ヲ經其情狀ニ因リ期限ヲ定メ試験ヲ許サハルコトアルヘシ

第十一條 試験問題ハ試験主事者試験委員協議ノ上之ヲ撰定シ試験場ニ臨ミ受験人ヲシテ筆答セシムヘシ

但時宜ニヨリ口答セシムルコトアルヘシ

第十二條 試験主事者ハ試験終ルノ後試験委員ト與ニ其成績ヲ評定シ及第シタル者ニハ直チニ及第證書ヲ與フヘシ

但及第證書ニハ試験主事者試験委員連署スヘシ

第十三條 試験ニ落第シタル者ハ半年ヲ終ルニ非レハ再試験ヲ請フヲ得ス

第十四條 醫術開業試験ヲ受クル者ハ試験開場ノ前日迄ニ左ノ手数料ヲ納ムヘシ

前期試験手数料 金三圓

後期試験手数料 金五圓

齒科試験手数料 金五圓

第十五條 受験中疾病及ヒ其他ノ事故アリテ試験ヲ中止シ又ハ落第シタル者ト雖モ前條ノ手数料ヲ返付セス

(本布達發布ニ付內務省併參事院及第二局議案等アリ前ノ十六年十月第三十五號布告ノ下ニ載ス)

十七年四月衛生局所定ヲ以テ試験ヲ開始サル以前ハ手数料ヲ返付ス

醫術開業試験規則ノ疑ヲ質ス

內務省ヨリ參事院ヘ同合十六年十一月一日

醫術開業試験規則第八條ニ於テ前期試験ハ一箇年半後期試験ハ更ニ一箇年半以上修學セシ者ニアラサレハ云々ト有之右更ニ一箇年半トハ前期試験ヲ受ケタルヨリ計算スル儘ニ無之前修學ノ一箇年半ヨリ又更ニ一箇年半修學スルコトニシテ即チ就學ヨリ通算シテ三箇年ヲ經シ以上ハ試験差許可申儀ト相心得候得共爲念此段及御質疑候也

參事院回答 十六年十一月八日

本月一日付質問醫術開業試験規則第八條ノ件ハ見解ノ通右及回答候也

埼玉縣ヨリ內務省ヘ同十六年十月三十一日

本年十月第三十四號布達醫術開業試驗規則第六條ニ於テ試驗科目前後二期ニ區別有之其科目中眼科產科等ニ列記有之儀ニ付後來眼科產科等特ニ其科ノ試驗ヲ以テ專門開業許可之儀ハ御開屆難相成儀トハ存候得共同則第七條ニ於テ齒科醫ノミ獨專門開業許可相成候様相見聊疑團相生シ候ニ付相伺候也

伺之趣齒科醫術ニ限り專門開業差許候儀ト可心得事

愛知縣ヨリ内務省ヘ伺 十六年十一月十五日

本年太政官第三十四號布達ニ依リ醫術試驗ヲ願出ル者ノ年齢ニ制限ハ無之候哉

内務省指令 十六年十一月二十八日

醫術試驗ヲ願出スルモノ、年齢ハ制限ナシ

東京府ヨリ内務省ヘ伺 十六年十二月十七日

本年太政官第三十四號布達醫術開業試驗規則第九條ニ據レハ後期試驗ヲ受ケントスル者ハ其願書ニ履歴書及前期試験及第ノ證書ヲ副ヘ云々ト有之候處改正前ノ試験規則ニ據リ内外科眼科產科等各專門ヲ試験及第シ既ニ右ノ免許狀ヲ所持シ後期試験志願ノ者ハ再ヒ前期試験ヲ要セス直チニ後期試験御許可相成候事トハ存候得共爲念此段相伺候也

内務省指令 十六年十二月二十四日

伺之通

内務省告示 十六年十月二十九日

來十七年第一回醫術開業試驗舉行ノ地方及其期日左之通相定候條志願之者ハ本年第三十四號布達ニ準據シ其願書ニ試験ヲ受ケントスル望ノ場處ヲ記載シ本年十二月中居住ノ地方廳ヘ差出スヘシ此旨告示候事

三月上旬

東京府下東京

四月中旬

愛知縣下名古屋

同

宮城縣下仙臺

同

岡山縣下岡山

五月中旬

大阪府下大阪

同

愛媛縣下松山

同

青森縣下弘前

六月中旬

石川縣下金澤

同

長崎縣下長崎

内務省達 十六年十月三十一日

醫師免許規則來十七年一月一日ヨリ施行ニ付十年當省乙第七十六號達ニ依リ醫術開業免狀相受度者ハ本年十二月二十日限り可爲願出此旨相達候事

衛生局ヨリ内務省ヘ伺 十六年十月二十四日

十年當省乙第七十六號達ニ依リ今以テ醫術開業免狀出願ノ者モ有之候處今般第三十五號ヲ以テ醫師免許規則御發布相成候ニ就テハ來十七年一月以後ハ該達モ消滅相成候間此際差出漏ノ者無之様左案御達相成可然哉相伺候也

東京府布達 十六年十一月九日

醫師免許規則來十七年一月一日ヨリ施行相成候ニ付明治十年當廳甲第八十二號布達ニ依リ奉職履歷適當ノ廉ヲ以テ醫術開業免狀願受度者ハ本年十二月二十日限り可願出右布達候事

根室縣告示 十六年十一月十三日

十七年第一回醫術開業試驗舉行地及其期日
以下此類ノ告示ハ總テ之ヲ略ス

醫師ヲ以テ官廳ニ奉職スル者免狀下付願出期
十六年十二月内務省達乙第四十七號ヲ以テ願書ヲ願出シム
十八年七月内務省達甲第二十四號ヲ以テ免狀ヲ書換交付ス

甲第八十二號ハ十年八月内務省達乙第七十六號ノ下ニ載ス

今般太政官第三十五號ヲ以テ布達相成候醫師免許規則ノ儀來ル十七年一月一日ヨリ施行ニ付十年內務省乙第七十六號達ニ據リ醫術開業免狀相受度者ハ本年十二月二十日限り願書當廳ヘ可差出此旨告示候事

函館縣告示 十六年十二月十三日 告第六十五號

明治十年內務省乙第七十六號ヲ以テ維新以來醫術ヲ以テ諸官廳及地方公立病院ニ奉職シ主トシテ醫療若クハ教授ノ任ニ當リタル者ハ志願ニヨリ試驗ヲ不須直ニ免狀交付候ニ付同年八月迄ノ履歷書ヲ添地方廳ヲ經願書可差出旨達有之候處今般該達以後奉職セシ者ト雖モ該達ニ比準スヘキ者ハ特別ヲ以テ志願ニ依リ直ニ醫術開業免狀授與可相成候條本年十二月限りニ履歷書ヲ添當廳ヲ經內務省ヘ可願出此旨告示候事

外國人我邦内ニ於テ醫業ヲナス者取扱方

外務省ヨリ內務省ヘ照會十六年一月十二日
外國人ニシテ醫業ヲ爲ス者取扱方ノ儀ニ付函館縣ヨリ別紙ノ通伺出當省於テハ左ノ通指令及フヘキ方ト見込候得共一應貴省御意見致承知度及御協議候條至急御回答有之度此段及御照會候也
函館縣ヨリ外務內務兩省ヘ伺十五年十二月十五日
外國醫取扱振及外國人ニシテ免狀ヲ有セス醫業ヲ爲ス者處分方目下差支候儀有之候條左ノ廉々至急御明示相成度
一外國醫ニシテ我國ニ來リ醫術ヲ開業セントスル者本國政府ノ免狀ヲ有スル上ハ地方廳ニ届出ス開業スルモ不差支哉或ハ又免狀ヲ添可爲届出哉
一外國人ニシテ本國政府ノ醫業免狀ヲ有セサル者我國内ニ於テ醫術ヲ施ス時ハ其國領事ヲ經テ該業差止可然哉
一外國人ニシテ我國内ニ於テ醫術開業ノ爲メ試驗願出候際ハ御國人同様取計可然哉
一外國醫ニシテ我國人及ヒ居留外國人ヲ治療スルトキハ地方廳定ムル所ノ規則ニ依リ死亡届或ハ患者表等爲差出候ハ無論ニ可有之哉
右相伺候也

指令案

第一條 免狀ヲ有スル上ハ地方廳ニ届出ス開業スルモ差支ナシ
第二條 伺之通
第三條 試驗願出ルコトアルトモ受理スヘキモノニアラス
第四條 我國人患者ニ限り伺之通り
內務省回答十六年五月十四日
去ル一月中御省公第二號ヲ以テ外國人ニシテ醫業ヲ爲ス者取扱方ノ儀函館縣ヨリノ伺出ニ對シ該指令形御照會ノ趣了承右ニ付篤ト經審議候處第二條第四條ハ御省御起案ノ通御同見ニ候得共第一條及第三條ハ彼是當省意見ノ廉々有之候ニ付右兩條ハ指令左案朱書ノ通相改申度尤共第三條ニ就テハ猶御協議致度儀モ有之候處指令之儀餘リ遷延致候テモ不都合ニ付一先ツ左ニ指令致置度候條御同意相成度御回答旁此段申進候也

指令案

(第一條 後段伺之通)
第二條 伺之通
(第三條 追テ何分ノ指令ニ可及候事)
第四條 我國人患者ニ限り伺之通

外務省ヨリ內務省ヘ照會十六年十月十八日

外國人醫業ヲ爲ス者取扱方ノ儀ニ付函館縣伺ヘ指令案取調公第二號ヲ以テ及御協議候處外衛一號ヲ以テ貴省御意見御申越ノ趣致承知候右御申越ニ付再考ノ上指令案取調候處元來居留地内ニ於テ開業スル儀ニ候得ハ我方ニ於テ關係ス可カラサル場合有之候ニ付函館縣伺ノ趣難開届箇條モ有之候得共函館港ノ儀ハ居留地内外ノ稱呼ハ有之候得共實際雜居ノ姿ニ相成居候ニ付隨テ我國人民ノ治療スルコトモ不尠儀ト存候就テハ朱書ノ通但書ヲ附シ自餘ハ貴省御意見ノ通指令致シ當省ニ於テ異見無之候條右ニテ御意見無之候ハ、貴省ニ於テ伺書ヘ指令ヲ記シ御捺印ノ上御返附有之度此段再應及御照會候也

指令案

書面伺之趣左ノ通可相心得事

但本件指令ノ儀ハ我國人民ノ患者ヲ治療スル者ニ限り候條右趣旨ヲ以テ其港在留各國領事ヘ照會可致置儀ト心得ヘシ

第一條 後段伺之通
第二條 伺之通

第三條 追テ何分ノ指令ニ可及事
第四條 我國人患者ニ限リ伺之通

内務省回答 十六年十一月五日

外國人ニシテ醫業ヲ爲ス者取扱方函館縣伺へ指令案ノ儀ニ付公第一六二號ヲ以テ再應御照會ノ趣致了
承候右御申越ノ廉當省ニ於テ別段異見モ無之ニ付則伺書へ指令記載ノ上捺印シ御返付ニ及候條可然御
計相成度此段及御回答候也

内務省達 十六年十一月十七日

本年第三十五號醫師免許規則第三條ニ據リ試験ヲ要セス免狀ヲ授與スヘキ者ハ東京大學及ヒ左ノ條件
ヲ具ヘ當省ノ特許ヲ得タル醫學校ノ卒業證書ヲ有スル者ニ限リ候條右ニ適應スル醫學校有之候向ハ其
校則教則及教員履歷書生徒員數其他學校ニ關スル一切ノ書類取纏メ豫メ當省ヘ稟議スヘシ此旨相達候
事

但明治十五年太政官第四號布達ニ依リ既ニ特許ヲ得タル向ハ此際更ニ稟議ニ及ハス
一三名以上ノ醫學士（歐米ノ大學校ニ於テ卒業シタルモノ等其ヲ以テ教諭ニ充ツルモノ）
一生徒ノ員數ニ相當セル助教ヲ置クモノ
一四年以上ノ學期ヲ定メ教則并ニ試験法ノ完備スルモノ
一生徒ノ實地演習ヲ爲スヘキ病院アルモノ
一器械標本ノ具備スルモノ

内務省衛生局所定 十六年十一月十七日

改正醫術開業免狀并試験及第證書式

醫術開業免狀書式ヲ改
正シ并ニ試験及第證書
式ヲ定ム
十七年二月九日及十八年
七月（日關）衛生局所定ヲ
以テ免狀ヲ追加ス

醫師免許規則第三條ニ
適應スル醫學校アル向
ハ其校則等豫メ稟議セ
シム

醫術開業免狀

(籍 族)
(氏 名)
(何年何月生)

明治(何年何月何府縣下何地)ニ於テ前
期試験ヲ經明治(何年何月何府縣下何
地)ニ於テ後期試験ヲ完了ス因テ明治
十六年第三十五號布告醫師免許規則
ニ據リ此免狀ヲ授與ス

明治(何)年(何)月(何)日

内務卿 位 勳 姓 名

此免狀ヲ勘査シ第(何號)ヲ以テ醫籍ニ登録ス

官 位 勳 姓 名

衛生局長

齒科醫術開業免狀

(籍 族) 氏 名

(何年何月生)

明治(何)年(何)月(何府縣下何所)ニ於テ

試験ヲ完了ス因テ明治十六年第三十

五號布告醫師免許規則ニ據リ此免狀

ヲ授與ス

明治(何)年(何)月(何)日

内務卿

位 勳 姓 名

官 位 勳 姓 名

衛生局長

此免狀ヲ勘査シ第何號ヲ以テ醫籍ニ登録ス

醫術開業免狀

(籍 族) 氏 名

(何年何月生)

明治(何)年(何)月(東京大學ニ於テ受領シ

タル醫學全科卒業ノ證書ヲ諦認ス因

テ明治十六年第三十五號布告醫師免

許規則ニ據リ此免狀ヲ授與ス

明治(何)年(何)月(何)日

内務卿

位 勳 姓 名

此免狀ヲ勘査シ第何 號ヲ以テ醫籍ニ登録ス

衛生局長

官 位 勳 姓 名

醫術開業免狀

(籍 族) 氏 名

(何年何月生)

明治何年何月何府縣下何府縣立醫學

(校)ニ於テ受領シタル醫學入主科卒業ノ

證書ヲ誦認ス因テ明治十六年第三十

五號布告醫師免許規則ニ據リ此免狀

ヲ授與ス

明治(何)年(何)月(何)日

内務卿

位 勳 姓 名

衛生局長

官 位 勳 姓 名

此免狀ヲ勘査シ第(何 號)ヲ以テ醫籍ニ登録ス

醫術開業免狀

(籍 族) 氏 名

(何年何月生)

(何)年(何)月何國何州何(大)學校ニ於テ

受領シタル醫學全科卒業ノ證書ヲ誦

認ス因テ明治十六年第三十五號布告

醫師免許規則ニ據リ此免狀ヲ授與ス

明治(何)年(何)月(何)日

内務卿

位 勳 姓 名

衛生局長

官 位 勳 姓 名

此免狀ヲ勘査シ第(何 號)ヲ以テ醫籍ニ登録ス

醫術開業免狀

(籍 族) 氏 名

(何年何月生)

(何)年(何)月何國何州何所_ヨ(受領シタ

ル醫術開業免許ノ證書ヲ諱認ス因テ

明治十六年第三十五號布告醫師免許

規則ニ據リ此免狀ヲ授與ス

明治(何)年(何)月(何)日

内務卿

位 勳 姓 名

此免狀ヲ勘査シ第(何)號ヲ以テ醫籍ニ登録ス

衛生局長

官 位 勳 姓 名

醫術假開業免狀

(籍 族) (姓 名)

(何年何月生)

明治(何)年(何)月(何)府縣知事何某ノ具狀

ニ依リ(何府縣何國何郡區何町村)ヲ限リ

醫術開業ヲ認可ス因テ明治十六年第三十

五號布告醫師免許規則ニ據リ此免狀ヲ授

與ス

明治(何)年(何)月(何)日

内務卿

位 勳 姓 名

此免狀ヲ勘査シ第(何)號ヲ以テ醫籍ニ登録ス

衛生局長

官 位 勳 姓 名

第(何)號

醫術開業前期試驗及第之證

(籍族)

(姓)

(名)

(何年何月生)

右ハ明治(何)年(何)月(何地)ニ於テ施行セシ醫術

開業前期試驗ニ及第ス因テ此證ヲ與フ

明治(何)年(何)月(何)日

試驗委員

(物理學)

學位

姓名

(名)

(生理學)

學位

姓名

(名)

試驗主事者

(官)

位

姓

(名)

第(何)號

醫術開業後期試驗及第之證

(籍族)

(姓)

(名)

(何年何月生)

右ハ明治(何)年(何)月(何地)ニ於テ施行セシ醫術

開業後期試驗ニ及第ス因テ此證ヲ與フ

明治(何)年(何)月(何)日

試驗委員

(外科)

學位

姓名

(名)

(內科)

學位

姓名

(名)

(藥物學)

學位

姓名

(名)

(眼科學)

學位

姓名

(名)

(產科學)

學位

姓名

(名)

(外科臨床實驗)

學位

姓名

(名)

(內科臨床實驗)

學位

姓名

(名)

試驗主事者

(官)

位

姓

(名)

第(何)號

齒科醫術開業試驗及第之證

(籍 族)

(姓)

(名)

(何年何月生)

右ハ明治(何)年(何)月(何地)ニ於テ施行セシ齒科

醫術開業試驗ニ及第ス因テ此證ヲ與フ

明治(何)年(何)月(何)日

試驗委員

(齒科解剖及生理

官位學位 姓

(名)

(齒科病理及治療

官位學位 姓

(名)

(齒科用藥品

官位學位 姓

(名)

(齒科用器械

官位學位 姓

(名)

(實地試驗

官位學位 姓

(名)

試驗主事者

(官)

位

姓

(名)

內務省達 乙第六年十二月五日

明治十年當省乙第七十六號達以後奉職セシ者ト雖モ該達ニ比準スヘキ者ハ特別ヲ以テ志願ニ依リ直ニ醫術開業免狀可致授與候條本年十二月限り履歷書相添可爲願出此旨相達候事

附書ヲ以テ官廳ニ呈請スル者ハ四縣書ヲ添ヘ願出シム

十八年七月內務省達甲第二十四號ヲ以テ免狀ヲ書換交付ス

衛生局ヨリ內務省ヘ伺 十六年十二月一日
明治十年乙第七十六號御達ニ依リ醫術開業免狀相受度者ハ可爲願出義ニ付本年乙第四十二號ヲ以テ府縣ヘ相達相成候處右七十六號御達後ニ於テ其資格適應ノ者ニシテ免狀所持無之者間々有之候趣ニモ候得ハ是等ノ者ハ向後非醫ヲ以テ論セサルヘカヲサル義ニシテ惘然之事ニ候條此際左案ヲ以テ各府縣ヘ御達相成可然哉此段相伺候也

(參考)

宮城縣ヨリ內務省ヘ伺 十六年十二月二十四日
御省乙第四十七號ヲ以テ明治十年御省乙第七十六號達以後奉職ノ者ト雖トモ該達ニ比準スヘキモノハ志願ニ依リ直ニ醫術開業免狀御授與可相成旨御達相成候付テハ縣立避病院擔當醫員ノ如キハ勿論該達ニ比準スルヲ得ヘキ儀ト存候處縣立病院附屬驅微院擔當委員及郡區醫員ノ如キモ縣令ノ命スル處ニシテ地方稅賦金等ヨリ俸給與致置候儀ニモ有之且地方衛生會員中醫業ヲ以テ撰拔セラレタルモノハ俸給ハ給與不致ト雖トモ同様縣令ヨリ命シ置候ニ就テハ是亦該達ニ比準スルヲ得候儀ト相心得可然哉

甲第八十二號八十年八月內務省達乙第七十六號ノ下ニ載ス

東京府布達 甲第六年十二月七日

明治十年當應甲第八十二號布達以後奉職セシ者ト雖モ該布達ニ比準スヘキ者ハ特別ヲ以テ醫術開業免狀下付可相成候條本月限り履歷書相添願出ヘシ

右布達候事

內務省告示 甲十六年十二月十日

今般太政官第三十四號ヲ以テ醫術開業試驗規則布達相成候ニ付右受驗人心得左之通相定候條此旨告示候事

醫術開業試驗受驗人心得

受験人心得

- 第一條 醫術開業試験ハ當省ヨリ告示シタル試験舉行地ノ中各自便宜ノ地ニ於テ之ヲ受クルヲ得ヘシ
- 第二條 醫術開業試験ヲ受ケント欲スル者ハ本年第三十四號布達醫術開業試験規則第九條ニ準據シ其願書ヲ居住ノ地方廳ヘ差出スヘシ
- 第三條 前條許可ノ指令ヲ受ケタル者ハ當省ヨリ告示シタル期限迄ニ試験舉行ノ地ニ着シ宿所氏名ヲ其地方廳ヘ届出ツヘシ
- 第四條 試験手數料ハ試験舉行ノ前日迄ニ醫術開業試験場ヘ相納ムヘシ
- 第五條 試験場ノ取締上不都合ト認ムヘキ所爲アル者ハ主事者ヨリ退場セシムルヲアルヘシ
- 第六條 前期試験ニ於テ二日後期試験ニ於テ三日以上欠席スル者ハ主事者ヨリ其期ノ試験ヲ終フルヲ得ス

願書式

醫術開業試験願

住所(寄留ナレハ本籍ヲ併記スヘシ)
族籍

氏名

年月日

私儀何年何月何日ニ於テ醫術開業前期(後期)齒科ナレハ醫術ノ上齒科ノ二字ヲ加ヘ前期後期ノ四字ヲ除ク試験相成度別紙書類相添此段奉願候也

年月日

右氏名印
戸長氏名印

内務卿宛

衛生醫員氏 名印

醫術開業試験出願者願書進達ニ付心得方

内務書記官ヨリ各府縣ヘ通牒 十六年十二月十二日

本年第三十四號布達醫術開業試験規則第九條但書エ履歷書云々保證アルヲ要スト有之候處官立府縣立及私立醫學校又ハ其師タルモノ、授業年月明瞭ナル證書ヲ履歷書ニ添ヘ差出候得ハ願書進達相成不苦候條此段爲御心得及御通牒候也

醫師不正ノ行爲アル節稟申方從前ノ通り心得シム

内務省訓示 十六年十二月二十日 各府縣

今般第三十五號ヲ以テ醫師免許規則御布告相成候ニ付來ル十七年一月一日ヨリ客年第三十九號布告ハ廢止相成候得共客年九月四日附坤衛甲第五九五號ヲ以テ及訓示候手續ノ義ハ總テ從前ノ通心得稟申可致此旨及訓示候也

丁第四十二號ハ十五年九月四日內務省訓示ノ下ニ載ス

司法省達 十六年十二月二十八日(治罪門刑事部達) 第三十九號大審院裁判所則ノ目ニ見ニ

本年第三十五號布告ヲ以明治十五年第三十九號布告被廢候ニ付同年當省丁第四十二號達ハ自然消滅ノ處今般內務卿ヨリ更ニ照會ノ趣モ有之候條同省ヘ通牒方從前ノ通り可取計此旨相達候事

内務省ヨリ司法省ヘ照會 十六年十二月二十日

本年第三十五號ヲ以テ醫師免許規則御布告相成候ニ就テハ客年第三十九號布告ハ來明治十七年一月一日ヨリ廢止相成候得共醫師タル者醫業ニ關スル犯罪有之處斷相成候節ハ從前之通其都度御通知相成候様御取計有之度此段更ニ及御照會候也

司法省回答 十六年十二月二十八日

本月坤衛第一〇八四號ヲ以テ醫師犯罪處斷ノ節通知之儀ニ付御照會致了承候即チ別紙之通大審院并ニ各裁判所ヘ相達候條此段及御回答候也

内務省達 十六年十二月二十八日 乙第五十號府縣

醫術開業ニ付現在醫師ノ姓名等具申セシム

醫籍編製候ニ付左ノ書式ニ照準シ來十七年一月一日現在醫師ノ氏名等取調同年三月限り可差出此旨相達候事

明治十七年一月一日何國何區現在內外科醫師氏名 何府縣試驗ヲ經タル者									
受驗地名	受驗年月	免狀授與年月日	住	所	本籍	族	生年月	氏	名
何府縣	何年何月	何年何月何日	何町	村	何府縣何國何郡區何町村	平士族	何年何月	何	某
東京大學ニ於テ醫學卒業證書ヲ得タル者									
卒業年	月	免狀授與年月日	住	所	本籍	族	生年月	氏	名
何年	何月	何年何月何日	何町	村	何府縣何國何郡區何町村	平士族	何年何月	何	某
外國ニ於テ醫學卒業證書ヲ得タル者									
修學地名	證書年月日	免狀授與年月日	住	所	本籍	族	生年月	氏	名
何國何地何學校	何年何月何日	何年何月何日	何町	村	何府縣何國何郡區何町村	平士族	何年何月	何	某
奉職履歷ニ依ル者									
免狀授與年月日	住	所	本籍	族	生年月	氏	名		
何年何月何日	何町	村	何府縣何國何郡區何町村	平士族	何年何月	何	某		
從來醫師ニシテ開業ノ證ヲ授與セシ者									
免狀授與年月日	住	所	本籍	族	生年月	氏	名		
何年何月何日	何町	村	何府縣何國何郡區何町村	平士族	何年何月	何	某		
十五年內務省乙第十四號達ニ依リ開業ノ證ヲ授與セシ者									
免狀授與年月日	住	所	本籍	族	生年月	氏	名		
何年何月何日	何町	村	何府縣何國何郡區何町村	平士族	何年何月	何	某		
免許證授與年月日	住	所	本籍	族	生年月	氏	名		
何年何月何日	何町	村	何府縣何國何郡區何町村	平士族	何年何月	何	某		

何年何月何日	何町村	何府縣何町村	平士族	何年何月	何	某			
明治十七年一月一日何國何郡區現在專門醫師氏名 何府縣試驗ヲ經タル者									
受驗地名	受驗年月	免狀授與年月日	科目	住所	本籍	族	生年月	氏名	
何府縣	何年何月	何年何月何日	內科外科 或產科等	何町村	何府縣何町村	平士族	何年何月	何	某
外國ニ於テ醫學卒業證書ヲ得タル者									
修學地名	證書年月日	免狀授與年月日	科目	住所	本籍	族	生年月	氏名	
何國何地何學校	何年何月何日	何年何月何日	內科外科 或產科等	何町村	何府縣何町村	平士族	何年何月	何	某
奉職履歷ニ依ル者									
免狀授與年月日	科目	住所	本籍	族	生年月	氏名			
何年何月何日	內科外科 或產科等	何町村	何府縣何町村	平士族	何年何月	何			某
從來醫師ニシテ開業ノ證ヲ授與セシ者									
免狀授與年月日	科目	住所	本籍	族	生年月	氏名			
何年何月何日	內科外科 或產科等	何町村	何府縣何町村	平士族	何年何月	何			某
十五年當省乙第十四號達ニ依リ開業ノ證ヲ授與セシ者									
免狀授與年月日	科目	住所	本籍	族	生年月	氏名			
何年何月何日	內科外科 或產科等	何町村	何府縣何町村	平士族	何年何月	何			某
免許證授與年月日									
何年何月何日	科目	住所	本籍	族	生年月	氏名			
何年何月何日	內科外科 或產科等	何町村	何府縣何町村	平士族	何年何月	何			某

東京府達 十七年一月七日 第二號郡區役所
醫籍編製相成候ニ付別紙書式ニ照準シ本月現在醫師ノ氏名取調來二月二十九日限り可差出此旨相達候事

醫師免許規則第五條ニ依リ醫師免許狀授與ニ付訓示ス

十七年六月六日衛生局通牒ヲ以テ第五條內規ヲ定ム
十七年五月二十一日訓示ヲ發スヘシ

昨十六年第三十五號布告醫師免許規則第五條ニ依リ醫師假免狀授與之儀ハ實際醫師欠乏ノ場所ニ限リ區域ヲ定メ開業差許候儀ニ付其地之廣狹人口戶數及ヒ他ノ開業醫師アル村落ニ至ル道路ノ險易里程等詳細取調繪圖面相添本人履歷書ヲ併セ其時々可伺出此旨及訓示候也

(參考)

三重縣ヨリ內務省ヘ伺十七年一月十五日

客年第三十五號公布醫師免許規則第五條ニ醫師ニ乏シキ地ニ於テハ府知事縣令ノ具狀ニ據リ內務卿ハ醫師開業試驗ヲ經サル者ト雖モ其履歷ニヨリ假開業免狀ヲ授與スルコトアルヘシト有之乃チ該公布發行已來醫師ハ開業免狀ヲ得タル者及規則施行以前ニ開業免狀ヲ授與スルコトアルヘシト有之乃チ該公布切實ニ特別ノ詮議ヲ請求スル者ニ候得共府知事縣令ニテ衛生事務執行上其地ノ狀態不得已ヲ認メ內務卿間併取ニテ醫師ナキ地ニ於テ開業志願者ハ略試驗ヲ行ヒ假免狀ヲ付テ去ル十三年以來御省ニ京畿濟山往來其履歷書ト學術ト組離候向モ有之就テハ規則第五條ノ場合ニ於テ該地ニ醫師ノ必要ナルハ勿論候得共醫師ニ未熟ヨリ却テ弊害ヲ招ク所モ亦豫メ願慮スヘキ事ニ付本人履歷書ニ醫師ノ證明書又ハ郡醫格別平常ニ在テハ猶邊限ニ限リ市街又ハ人烟稠密ノ宿驛等ハ其志願人アルモ之ヲ容レサル事トシ且開業後轉居移住等モ右區域內ニ於テ之ヲ爲サシムル儀ト心得可然哉果シテ然ラハ其旨管內ハ布達及ヒ申度既ニ追追志願ノ者モ有之書面差出來履歷調查候處天保年度ノ修業ニテ何科ノ醫師ヲ學得シヤ分明ナラサル位ノ事ニテ右様ノ者迄御省ニ具狀候テハ際限モ無之事ニ候得共元來第五條開業ノ許否ハ自ラ御詮議モ有之事ニ付戶長衛生委員等ヨリ醫師ニ乏シキ事情ノ添申ヲ以テ願出右相違無之候ハハ其修業履歷ハ單ニ本人ヨリ申出ノ儘具狀候儀ト心得可然哉前陳ノ通追追出願者モ有之差支候ニ付至急何分ノ御指令有之度候也

內務省訓示十七年五月二十一日

別紙醫師免許規則ノ儀ニ付伺出候處右規則第五條之儀ハ戶長衛生委員等之申出ニ據リ縣令ニ於テ必要ト認ムル場合ニ限リ當省ヘ具狀スヘキ儀ニシテ本人履歷ニ就キ師家若シハ郡醫ノ保證ヲナサシムルハ適宜タルヘク居住移轉ノ儀ハ伺之通且從來其縣限リ略試驗ヲ行ヒ假免狀下付セシ者ハ本年當省乾甲第十四號訓示之旨ニ依リ更ニ可申出儀ト心得此旨訓示候也

內務省達十七年一月二十一日

從前府縣廳ニ於テ下付シタル醫術開業許可ノ證ヲ所持スル者ハ今般更ニ當省ニ於テ免狀授與可致候條此旨相達候事

府縣廳ノ醫術開業許可ノ證ヲ所持スル者ヘ更ニ免狀ヲ授與ス
十七年二月二日衛生局所定ヲ以テ引換免狀書式ヲ定ム

衛生局ヨリ內務省ヘ伺十七年一月七日
從前開業醫師之儀ハ明治九年本省乙第五號達ニ依リ各地方ニ於テ免許證ヲ下付シ其後各醫師ニシテ他ノ府縣ニ轉籍寄留等之節ハ尙元管廳ノ添書ヲ請出願爲致試驗ヲ不須直ニ免許證ヲ下付爲致候處右手續ヲ不爲甲縣ノ者乙縣ニ寄留開業シ爲メニ犯罪處分ニ相成候者往來有之已ナラス各地方廳ニ於テモ既ニ開業醫師タルノ確實ナルモノニ無益ノ手數ヲ費シ來候處客年第三十五號布告醫師免許規則發布相成候ニ付テハ從前開業醫師モ一同之權利ヲ有シ彼此ノ別ハ無之且規則第七條ニ依リ今回醫籍編製可相成ニ付テハ從前開業ノ醫師開業免狀モ更ニ本省ヨリ下付相成候得ハ前陳ノ事情モ相省キ候間書換下付相成候様致度依テ御達案左ニ相伺候也

布達十七年一月三十一日太政大臣三條實美器內務卿山縣有朋副署

明治十六年第三十四號布達醫術開業試驗規則第八條ニ左ノ但書ヲ追加ス

但齒科醫術開業試驗ハ二箇年以上修學セシ者ニ非サレハ之ヲ受クルコトヲ得ス
右布達候事

內務省伺十六年十二月二十一日
本年十月第三十四號布達醫術開業試驗規則中齒科醫術試驗出願者修學年限無之候ニ付該規則第八條ニ左案之通但書御追加相成候様致度御布達案相添此段及上申候也
參事院議案十七年一月十七日
別紙內務省上申醫術開業試驗規則追加ノ件審査スル處左ノ如シ
案スルニ客年第三十四號布達醫術開業試驗規則第五條但書ニ齒科醫術試驗ハ全科一時ニ受クルモノトストアリテ其年限ナシ故ニ第八條ニ但書ヲ追加シ年限ヲ定ムルハ至當ノ義ニ付上申ノ通り御布達相成可然ト認定ス
右ニ由リ布達左ノ通ニテ可然哉上申候也
內務省ヘ通牒
十七年一月三十一日

內務省衛生局所定十七年二月九日

府縣廳ニ於テ下付セシ醫術開業許可證ノ引換免狀書式

（内外科）醫術開業免狀

（族籍）

（姓）名

（何年何月生）

明治十三年十月何府縣ニ於テ下付シタル（内外科）醫術開業許可ノ證ヲ諦認シ此免狀ヲ授與ス

明治 年 月 日

内務卿 位 勳 姓 名

此免狀ヲ勘査シ第（何 號）ヲ以テ醫籍ニ登録ス

衛生局長

官 位 勳 姓 名

（内外科）醫術開業免狀

（族籍）

（姓）名

（何年何月生）

明治十五年内務省乙第十四號達ニ依リ何府縣ニ於テ下付シタル（内外科）醫術開業許可ノ證ヲ諦認シ此免狀ヲ授與ス

明治 年 月 日

内務卿 位 勳 姓 名

此免狀ヲ勘査シ第（何 號）ヲ以テ醫籍ニ登録ス

衛生局長

官 位 勳 姓 名

醫師免許規則中ノ手数料
料取額方
十八年二月十日内務省達
甲第五號ヲ以テ明細帳ノ
下ヘ數字ヲ記入ス

醫師開業試験規則中ノ
試験手数料交付方

醫師ヲ以テ奉職ノ者ヘ
免狀下附ニ付内規

内務省達 乙十七年三月十九日
明治十六年十月第三十五號布告醫師免許規則第六條及第九條之手數料ハ每一箇月取纏メ明細帳相添當省
ヘ可相納此旨相達候事

内務省衛生局ヨリ各府縣ヘ通報 十七年四月二日

客歲十月第三十四號布達醫術開業試驗規則中第十四條ノ試験手数料ハ當省ヨリ派出ノ主事者ニ於テ受
取濟ノ上明細帳相添御廳ヘ依托可致候間當省會計局ヘ送付方御取計相成度此段及御照會候也

醫術ヲ以テ奉職ノ者ヘ免狀下附ニ付内規 内務省衛生局所定

一十年七十六號達ノ前後ヲ問フス同達中明文アル職務ヲ奉セシ者ハ勿論府縣立公立病院ノ醫員ニシテ
當直醫ノ名義ヲ存セサルモ其實當直醫ノ勤務ヲ爲セシモノハ月給十二圓以上ニ限リ比準相成可然哉
一七十六號達ノ文中及該達ニ付御定相成タル内規ニ於テ其職務ノ名義ヲ載セサルモ其職務ニ於テ同一
視スヘキ者ハ總テ其名義ニ拘ラス比準相成可然哉

一府縣立病院醫學校ニ於テ教授ノ業ニ從事セシモノハ病理以上ノ科ヲ教授セシ者ハ比準相成可然哉
但藥物ノ一科ヲ以テ教授セシ者ハ此限ニアラス

一監獄醫ハ月給二十圓以上ヲ以テ比準相成可然哉

一避病院醫員檢疫醫并ニ檢徽醫ハ七十六號達ニ附屬セシ内規ニモ無之其療スル所一部分ニ止リ殊ニ避
病院檢疫等ニ從事セシ者ハ醫師拂底之折柄臨時雇使ノモノニ付素ヨリ今般之御達ニヨルヘキモノニ
無之候哉

衛生局議案 十七年四月四日

昨十六年乙第四十二號同四十七號ヲ以テ十年乙第七十六號達ニ據リ醫術開業免許相受度者ハ可爲願出
旨御達相成候ニ付テハ乙第七十六號達ニ明文アル者ハ勿論府縣立公立病院ノ醫員ニシテ現ニ當直醫ノ

勤務ヲ爲セシモノハ總令其名義ヲ存セサルモ月給十二圓以上ハ該達ニ比準相成ヘキ歟且府縣立公立病
院勤務者外ノ者ト雖モ該達及該達ニ付定メラレタル内規ニ於テ其職務ノ名義ヲ載セサルモ其職務ニ於
テハ同一視スヘキ者ハ總テ其名義ニ拘ラス比準相成ルヘキカ又該達四項ノ得業生教員ノ如キ止テ醫學
ノ一部分化學生理學而己ヲ教授セシモノ適用相成間敷何トナレハ七十六號達ノ本項ニ該達ヲ以テ奉
職云々ノ明文ト參照スレハ醫術ヲ以テ教授セシ者ヲ指シタル者ニシテ其醫術ト稱スルハ當時醫師ト定
メラレタル區域ニ在リテ第五號達ノ則病理由以上六號達ノ一項但書參照セシモノ學科ヲ具備セシ者ニ限ルヘシ果シテ
然ラハ前文解割等ノ各科若クハ一科ヲ以テ其任ニ當リタルモノ醫術ヲ以テ教授セシ者トハ難被認歟又監
獄醫ハ該達及内規ニ明文ナキモ其實普通ノ治療ヲ施ス可キ者ニ付月俸二十圓以上ハ該達比準相成歟
唯避病院醫員若クハ檢疫醫并ニ檢徽醫ノ如キハ固ヨリ該達内規ニモ名義無之其所療モ亦一部分ニシテ
殊ニ檢疫等モ從事セシ者多クハ一時ノ假借ニ過キサレハ是等ハ比準難相成歟仍テ左ノ區域ニ隨ヒ豫メ
取調ノ目的御内定相成度此段相伺候也 十七年四月四日 局長決判

内務省訓示 十七年四月十八日 (二) 重訂ノ目

醫師藥師兼業ノ儀ハ不相成旨從來指令及置候向有之候處自今兼業爲致不苦儀ト可心得此旨訓示候也
但藥師試驗規則施行致居候向ニ於テハ成期ノ試驗ヲ遂ケ候ハ勿論ノ儀ト心得ヘシ

福井縣ヨリ内務省ヘ伺 十六年五月十一日

會テ御省免狀所持又ハ縣限許可シタル藥師ニシテ醫學修業ノ上成規ニ據リ醫術開業出願候節試験問題
請求致候ハ、御交附可相成ハ勿論ト信認仕候而シテ試験成績合格者ヘ開業免狀交附セラレシ上ハ右醫
師從前藥師兼業相兼業スルモ固ヨリ醫師試驗規則其他ニ嫌忌ノ明文無之限リハ別ニ妨ケ無之儀ト相心得
可然哉至急御指揮有之度此段相伺候也

内務省指令 十七年四月十一日

書面伺之通

(參考)

埼玉縣ヨリ内務省ヘ伺 十七年四月十九日
醫師ニシテ藥師兼業不相成儀ハ各縣伺御指令等ニモ相見候就テハ藥種商ト雖トモ同様兼業不相成儀ニ
候哉

内務省指令 十七年四月三十日
伺之趣藥種商兼業不苦儀ト可心得事

開業醫ノ子弟其家名相
續ハテハ手數料ヲ返付
ス

衛生局ヨリ内務省ヘ伺 十七年四月日 閣
客年太政官第三十四號布達醫師試驗規則第十五條ニ「受験中疾病其他事故アツテ試験ヲ中止シ又ハ落
第シタル者ト雖モ前條ノ手數料ヲ返付セス」ト有之候ニ付テハ既ニ其手數料ヲ上納スト雖モ試験ヲ始
メサル以前ニ疾病其他事故ヲ生シ竟ニ試験ヲ受ケサルモノハ手數料ヲ都テ御返付相成績ヲ以テ取扱可
然乎此段相伺候也 内務省四月二十二日

内務省訓示 十七年五月七日

明治十五年當省乙第十四號達ニ據リ從來開業醫ノ子弟其家名相續ニ付地方廳ニ於テ開業證下付ノ者其
相續權ヲ失フ時ハ開業可差止旨及指令置候向モ有之候處自今相續權ヲ失フ者ト雖モ開業差止候ニ不及
此旨訓示候也

衛生局ヨリ内務省ヘ伺 十七年五月日 閣

本年一月當省乙第四號ヲ以テ從前府縣廳ニテ下付シタル醫術開業許可之證所持ノ者ハ今般更ニ當省ニ
於テ免狀授與可相成旨御達相成候ニ付テハ十五年乙第十四號達ニヨリ開業醫ノ子弟其家名相續ニ依リ開
業證ヲ得タル者有故テ離縁等ヲナシ相續權ヲ失フ節ハ共ニ開業證モ各地方廳ヘ沒收致來候處右四號達
ニヨリ免狀授與相成ルニ付テハ一旦免狀ノ者ナレハ離縁等ニヨリ禁止相成譯ハ有之間敷就テハ右免狀
モ追々御下付可相成ニ付各府縣廳ヘ左之通御訓示相成可然哉此段相伺候也

醫師免許規則第五條內
規

内務省衛生局ヨリ各府縣ヘ通報 十七年六月六日

客年太政官第三十五號布告醫師免許規則第五條假開業免許醫師之儀ハ山間若クハ孤島等極メテ僻陬邊
境ニシテ到底本免許醫師移住之目途無之地ノ如キ萬萬不得已場所ニ非レハ詮議相成ヲサル筈ニ有之其
取扱手續之儀ハ別紙之通當省ニ於テ內規相定有之候間御參考之爲メ及御回付置候條右之趣意ヲ以テ御
取扱相成候様致度此段申進候也

醫師免許規則第五條內規

一十六年第三十五號布告醫師免許規則第五條ニ據リ假開業免狀ヲ得ント欲スルモノハ願書ニ開業地ノ

郡村名ヲ明記シ履歷書ヲ添ヘ差出スモノトス

但地方廳ニ於テハ十七年乾甲第十四號訓示ノ取調書ヲ添フヘシ

一醫師ニ乏シキ地ト認ムルトキハ開業醫師アル町村ニ隔絶シ患者往復ノ容易ナラサル場所ニ限ル其往
復ノ便ヲ缺カサルノ地ニ於テハ其情況奈何ニ拘ハラヌ假開業ヲ許可セサルモノトス

但シ孤島ノ如キハ陸地ニ遠隔スルカ又ハ舟楫ノ便困難ニシテ時時通路ヲ絶ツ等ノ者ヲ以テ本條ニ
準スヘシ

一前條ノ願書ニハ其地ノ戶長衛生委員之ニ與書シ若シ意見アルトキハ其書面ヲ付スヘシ

但本項ノ外尙郡區長ノ意見書若クハ區醫開業醫等ノ保證書ヲ添ヘシムル等出願手續ニ係ル細則ヲ
定ムルハ府知事縣令ノ適宜ニ任ス

一前條ノ出願者アルトキハ府知事縣令ニ於テ實際醫師ニ乏シキ地ナルヤ否ヤヲ取調ヘ若シ乏シカラ
ト認ムルトキハ之ヲ具狀スルヲ要セス

一府知事縣令ニ於テ醫師ニ乏シキ地ト認ムルトキハ願人ノ適否ニ拘ラス之ヲ具狀スヘシ
但其願人ヲ不適當ナリトスルトキハ意見書ヲ添ヘ差出スヘシ

一假開業ヲ願フモノハ曾テ開業醫師ニ就キ其補助等ヲナシタル者又ハ醫學ヲ修業シタル履歷アル者ニ
アラサレハ之ヲ許可セサルモノトス

一假開業醫師ハ免許區域外ニ出テ、區域外ノ患者ヲ診察治療スルコトヲ得ス
但シ區域外ノ患者ト雖モ區域內ニ來リテ診察治療ヲ乞フモノハ此限ニアラス

婦女ニ醫術開業許可
ヲ與ス

長崎縣ヨリ内務省衛生局ヘ照會 十四年五月二十四日

婦女ニシテ醫術開業許可之儀過般本縣ヨリ御本省ヘ相伺本月九日付ヲ以當分難被及何分之指令旨御指
令有之候處既ニ當縣神埼郡内ヘ兩三年前ヨリ一女子專ヲ醫術ヲ學ヒ漸漸進歩シ今ヤ佐賀病院醫學場ヘ
就キ猶一層勉勵修學シ各科卒業之上ハ成規之試験ヲ請願開業セントスル者有之ヨリ相伺候儀ニ有之然
ルニ該御指令之趣ニ依レハ斷然御許可不相成儀トモ不被存候得共到底婦女ニハ御許可不相成モノニ候
得ハ依然執行爲致候モ將來之方向ヲ慮マラシムル儀ニテ及的取扱方ニ差支候間貴局之御意見爲心得何

分之御答ヲ煩シ度此旨及御照會候也

内務省衛生局回答 十七年六月二十日

去ル十四年五月二十四日付衛第百號ヲ以テ御縣衛生課ヨリ御照會相成候女醫開業許可之儀ハ種種評議之末女子タリトモ相當之手續ヲ爲シ候上ハ差許候旨趣ニ省議決定致候條此段乍遲緩及御回答候也

(參考)

長崎縣ヨリ内務省ヘ伺十四年四月二十七日

婦女ニシテ醫術開業出願スルトキハ産内外科ノ別ヲ問ハス試験ノ上ハ許可セラルヘキ義ニ候哉即今伺出ノ向モ有之候條至急御指令相成度此段相伺候也

内務省指令 十四年五月九日
書面伺ノ趣ハ當分難及何分ノ指令候事

内務省告示 十七年七月二十五日

眼科醫術開業免狀ノ紛失

十九年二月内務省告示第
七號ヲ以テ告示ヲ止メ官
報ヲ以テ廣告ス
總テ是ニ類スル告示ハ略
ス

醫術開業免狀書換ノ節
裏書書式ヲ改正ス

第千四百十三號

右ハ群馬縣平民山田俊了ヘ下渡置候處本年二月中同人住宅ニ於テ紛失候旨届出候ニ付其所在見聞候者ハ速ニ管轄廳ヘ可申出尤該免狀ハ無効ニ屬候條此旨告示候事

内務省衛生局所定 十七年九月二十五日

改正醫術開業免狀書換ノ節裏書書式

明治 年 月 日授與シタル醫術開業免狀今般改姓名籍ノ故ヲ以テ書換願出ルニ因リ更ニ下渡ス者也

内務省

省印務

盜難ノ分

明治 年 月 日授與シタル醫術開業免狀今般以下(盜難ニ罹リ紛失ニ付下付)云々ニ改ム

内務省

省印務

衛生局ヨリ内務省ヘ伺十七年九月十日

右ハ是迄書換下付之節ハ免狀ノ裏面ヘ其事故ヲ朱書シ名簿ヘ衛生局長印章ヲ以テ割印之上下渡來候處今般御布達ニ基キ新製之醫籍簿ハ從前之名簿ト異リ割印難致候間是迄賣藥并阿片等ノ免許鑑札面ヘ押捺致來候本省ノ印章ヲ以テ左之雛形之通取計可然哉相伺候也
十七年九月三十日
内局書記官 決判

内務省衛生局ヨリ各府縣ヘ通報 十七年十月三十日

公私立醫學學校又ハ病院附屬醫學講習所等之生徒ハ勿論開業醫等ニ就キ醫學ニ從事候者都テ左式之通本年十二月三十一日之現在員乍御手數御取調來ル十八年一月中御通報有之度尙爾後モ毎年御取調御通報相成候様致度此段豫テ及御依頼候也

醫學生人員 十七年十二月三十一日

府(縣)立醫學校生徒

何人

衛生門 醫事

公私立醫學學校醫學講習所ノ生徒及開業醫等ニ就キ醫學ニ從事スル者ノ員數ヲ通報セシム
十九年九月内務省第十七號内務省告示ヲ參看スヘシ衛生總ノ目ニ載ス

公(私)立醫學校生徒
何人
公(私)立病院ニテ醫學修業ノ者
何人
開業醫ニ從ヒ醫學修業ノ者
何人
計何百人

札幌縣達

乙十七年十一月二十五日
乙十七年十二月二十五日
乙十七年十二月二十五日

縣公私立病院又ハ開業醫等ニ就キ醫學修業ノ者ハ都テ別表ノ通毎年十二月三十一日ノ現在員取調翌年一月十五日限り可届出此旨相達候事

(表式)

(縣)(公)(私)立何々病院ニテ醫學修業ノ者

族	籍	身	分	生	年	月	日	氏	名

開業醫ニ從ヒ醫學修業ノ者

族	籍	身	分	生	年	月	日	氏	名

東京府達

丙十八年五月七日
丙十八年五月七日
丙十八年五月七日

私立病院ノ生徒ハ勿論開業醫師ニ就キ醫學ニ從事スルモノハ毎年十二月三十一日現在員數取調(郡ハ郡役所ニ於テ取纏)翌年一月中當廳ヘ差出スヘシ此旨相達候事

但明治十七年十二月三十一日ノ分ハ來ル五月三十日迄ニ取調差出スヘシ

醫術開業受驗人心得中
ヲ改正ス

內務省告示
甲十七年十二月十三日
甲十七年十二月十三日

十六年十二月二十六號告示醫術開業受驗人心得第六條左ノ通改正候條此旨告示候事

第六條 試驗中一科以上缺席ノ者ハ其期ノ試驗ヲ終フルコトヲ得ス

衛生局ヨリ內務省ヘ伺十七年十月二十七日

考案候處現今御施行相成候ハ前期試驗ニ於テ二日後期試驗及齒科試驗ニ於テ三日以上缺席スル者ハ其期ノ試驗ヲ終フルコトヲ得スト有之右ハ試驗中疾病等ニ依リ實際不得已一時缺席スルモノハ爲ニ設ケラレ候儀ニ有之候處本年第二回ノ實験ニ因ルニ其疾病事故ヲ申立ル者ハ大抵問題ノ難易ヲ測リ萬一ヲ僥倖スルノ狡猾手段ニ出ルモノニシテ眞ノ疾病不得已事故ニ出ルモノハ百中一二ニ過キス東京ノ如キ受驗者多キ地ニアリテハ毎回斯ノ如キ者五六百名ニ及ヒ甚タ混雜ヲ生シ整理上差支候ノミナラス之カ爲メ更ニ委員ヲ招集シ問題ヲ改撰セシメ試驗致候ハ時日ヲ徒費シ費用ニモ關係不尠彼是不都合ト存候ニ付受驗人心得第六條ハ自今御改正相成候條致度告示案左ニ相伺候

內務省達
甲十八年二月十日
甲十八年二月十日

明治十七年三月乙第十七號達文中明細帳ノ下(及正當納人上納證書)ノ九字挿入候條此旨相達候事

醫師ニシテ盲聾啞等ニ罹リシトキ處分方ニ付內規
附リシトキ處分方ニ付
內規

醫師ニシテ盲聾啞等ニ罹リシトキ處分方ニ付內規
附十八年三月二十八日
附十八年三月二十八日

一醫師ニシテ盲聾啞其他不具癱疾ニ罹ルモノノ業務上ニ就テハ別段取締ヲ要セス

一前項ノモノ醫術開業試驗願出候節ハ願書進達苦シカラス

一醫師ニシテ瘋癲ニ罹ルモノハ醫師二名以上ノ診斷書ニ據リ全治ニ至ル迄醫業不相成旨地方廳ニ於テ本人ニ達シ免狀ハ該廳ニ預リ置其都度當省ヘ届出シム

衛生局ヨリ內務省ヘ伺十八年三月二十一日

右ハ別紙御參觀ノ通り茨城縣伺ニ御指令相成候儀モ有之候處尙左之通內規御決定相成諸向ヨリ伺出候節右ニ依リ御指令相成可然哉相伺候
附十八年三月二十八日
附十八年三月二十八日

(參考)

茨城縣ヨリ內務省ヘ伺十七年一月九日

醫術開業證ヲ有スル者ニシテ爾後癱狂全治ノ見込ナキ者又ハ盲聾啞等五官ノ一部若クハ全部ノ作用ヲ缺キ施術投藥ノ實際危險ノ虞アリト認ムル場合ニ於テ右等ノ者ハ如何處分致可然哉差掛候儀有之候條至急何分ノ御指揮有之度此段相伺候也

內務省指令十八年二月八日

書面伺之趣癱癲人ヲ除クノ外別段處分スルニ及ハサル儀ト可心得事
但癱癲人ハ醫師二名以上ノ診斷證明ニ依リ全治ニ至ル迄該免狀ヲ共廳ニ預リ置クヘシ尤此場合ニ於

テハ其都度届出ヘシ

醫術開業試驗出願人病
氣等ニテ取附願等差出
ストキ取扱方

内務省衛生局ヨリ各府縣へ通報 十八年四月十三日
醫術開業試驗出願人ノ内病氣或ハ事故等ニテ試験難相受モノハ取消願又ハ願書却下願等差出來候處以
後右等之者ハ届出ニ止メ該書面ハ當省へ御進達相成度此段及御通牒候也

根室縣醫師取締規則

根室縣布達 十八年五月八日

醫師取締規則別冊ノ通相定メ來ル六月一日ヨリ施行候條此旨布達候事

醫師取締規則

- 第一條 醫師(內外科內科外科產科眼
科齒科整骨科ヲ總稱ス)ハ内務卿ノ免許ヲ得タル者ニアラサレハ開業スルコトヲ得ス
- 第二條 醫師管内ニ於テ開業セントスルトキハ免許證寫ヲ副ヘ届出休業シタルトキハ其由ヲ届出ヘシ
- 第三條 醫師他管下又ハ管内へ轉居開業セントスルトキハ其場所ヲ記シ届出ヘシ
- 第四條 醫師廢業又ハ死亡シタルトキハ日數三十日以内ニ免許證ヲ返納スヘシ
- 第五條 前數條ニ要スル届書ハ其町村衛生委員及郡戸長ヲ經テ差出スヘシ
- 第六條 醫師施治ノ患者死亡シタルトキハ第一號書式ノ死亡届書ヲ製シ之ヲ付與スヘシ
但傳染病者ニ係ルトキハ該規則ニ據ルヘシ
- 第七條 醫療ヲ受クルノ猶豫ナキ死者ノ檢案ヲ乞フ者アルトキハ篤ト檢査ヲ遂ケ第二號書式ノ檢案書
ヲ與フヘシ
- 第八條 變死傷等ノ者アリテ警察官ヨリ檢案ヲ乞フトキハ檢視規則ニ據リ檢案書ヲ差出スヘシ
- 第九條 自己扱ノ妊婦四箇月以上ニシテ死胎ヲ分娩セシトキハ第三號書式ノ死産届書ヲ製シ之ヲ付與
スヘシ
- 第十條 醫師ハ前數條ノ届書ヲ乞フ者アルトキハ事故ニ托シ拒ムコトヲ得ス

(第一號書式) (用紙半紙)

死亡届

縣國郡町村番地居住或ハ寄留
族籍

何某父母兄弟姉妹妻子

氏 名

年 齡

病名及ヒ經過ノ年月

死ニ至ルノ原因

年月日死亡

右ハ拙者施治ノ患者ニ候處頭書ノ通死去候ニ付此段御届申上候也

何府縣族籍

縣國郡町村番地居住或ハ寄留

醫師又ハ

何病院醫員

氏 名 印

年月日

何郡長氏名殿

(第二號書式) (用紙同上)

死體檢案書

何府縣族籍

縣國郡町村番地居住或ハ寄留

何某父母兄弟姉妹妻子